

チェック!

脳神経内科では…

脳卒中、パーキンソン病などの
早期発見や適切な治療を行います。

✔ ろれつが回らない

代表疾患
脳卒中(脳梗塞・脳出血)、
多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症など

症状
明瞭な言葉を発することが
難しくなります。
会話に必要な筋肉を司る脳の部位や筋肉の
障害により症状が出ます。



✔ 意識障害

代表疾患
てんかん発作、脳卒中、
中枢神経系感染症、不整脈、
臓器不全、低血糖症、薬剤
性など

症状
意識障害にはさまざま
な程度があります。
昏睡状態でなくとも、眠りがちになったり、
会話や考えの混乱、集中力の欠如、明瞭に思
考できない状態も含まれます。



✔ ふるえ・勝手に手足や体が動いてしまう

代表疾患
パーキンソン病、本
態性振戦、ハンチントン病、
脊髄小脳変性症など

症状
規則的に手や足が
震えたり、顔面、身
体の一部や全身が
不規則に動いたり
します。



脳神経内科では…

脳神経内科の診療は
ますます発展していきます!



脳神経内科医は神経系と筋肉を診ます

全身の神経は、認知機能、運動機能、感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化・循環・発汗など、意識せず
に体が生命活動を続けるための自律神経まで、体全体がう
まく調和し、機能するために休みなく働いています。脳神
経内科医は、全身をコントロールする神経系と筋肉の不調
を的確に診断する「神経系と筋肉を診るお医者さん」です。

患者さんをていねいに細かく診察

脳神経内科医が行う特徴的な診察法として、「神経学的検査」
があります。これは、患者さんの意識や精神の状態、
言語、脳神経、運動機能、感覚機能、反射、協調運動、髄
膜刺激徴候、姿勢、起立歩行などを総合的に診断するも
ので、患者さんの全身を観察することで、病気とその原因
を見つけます。

患者さんの生活の質を維持・向上

脳神経内科では、治療が難しい患者さんやそのご家族と寄
り添いながら、生活相談や痛みの緩和、リハビリの指示、
福祉資源活用のための診断書等の作成、難病支援団体の紹
介などを行い、患者さんの生活の質を維持・向上するため
のサポートと、ご家族の介護負担の軽減のために貢献して
います。

病気の詳細はこちら!
ダウンロードしてご覧ください



脳神経内科のある
主要な施設はこちら!



脳神経内科の病気かも?!

チェック!

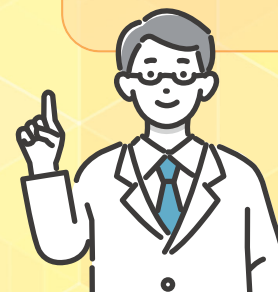
こんな症状、 ありますか?

気になる項目を チェック!

- 頭痛
- もの忘れ
- 見えにくい
- 痛み・しびれ
- めまい
- 歩行のふらつき
- 筋肉のやせ
- けいれん
- 手足の力が入らない
- ろれつが回らない
- 意識障害
- ふるえ・体が勝手に動く



上記に
あてはまる
症状があったら、
脳神経内科医
に相談して
ください!



チェック!

脳神経内科では…

次のような症状の原因となる病気を突き止め適切な治療を行っています。

✓ 頭痛

代表疾患 片頭痛、緊張型頭痛、くも膜下出血、髄膜炎、脳腫瘍など

症状

発作的または持続性の痛みが生じます。片頭痛では、ズキンズキンとした痛みが4～72時間持続した後消失し、それを繰り返します。



✓ もの忘れ

代表疾患 アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症など

症状

最近の出来事、日付を思い出せなくなったりします。疾患によっては鮮明な幻視や性格の変化などもあります。

✓ 見えにくい

代表疾患 多発性硬化症、視神経脊髄炎、脳卒中(脳梗塞・脳出血)など

症状

片目もしくは両目の視力低下や視野が欠けたりします。脳神経内科疾患が原因の場合、眼球部分の異常を認めないことがあります。



チェック!

脳神経内科へ相談を

痛み、しびれ、めまい、ふらつきは神経系の病気かも?

✓ 痛み・しびれ

代表疾患 脳卒中、多発性硬化症、脊椎症、脊椎椎間板ヘルニア、糖尿病など

症状

「触っても感覚がにぶい」、「痛みを感じにくい」などの感覚の低下を意味することや、「何もしなくてもビリビリする」などの異常感覚を意味することもあります。



✓ めまい

代表疾患 脳卒中、内耳性めまい、起立性低血圧、不整脈、貧血など

症状

「自分やまわりがぐるぐる回る」、「ふわふわしている」、「気が遠くなりそうな感じがする」、「目の前が暗くなる」などのさまざまな症状が含まれます。



✓ ふらつき

代表疾患 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発ニューロパチー、脳卒中(脳梗塞・脳出血)など

症状

まっすぐ歩けなくなったり、転びやすくなったりします。脳部位に障害を生じる場合と、両足の感覚機能に障害を生じる場合があります。



チェック!

脳神経内科では…

神経系や筋肉の病気と気づきにくい症状を診断し、病気を見つけます。

✓ 筋肉のやせ

代表疾患 炎症性筋疾患、筋ジストロフィー、末梢神経障害、筋萎縮性側索硬化症など

症状

筋肉がやせることを筋萎縮といい、筋力も低下し、今まで出来ていたことが出来にくくなります。筋肉自体の病気による場合と、運動神経の障害による場合があります。一般に筋肉の病気では肩からこの腕、腰回りから太ももにかけての筋肉が萎縮しやすく、神経の病気では手足の先の筋肉が萎縮しやすいという違いがあります。

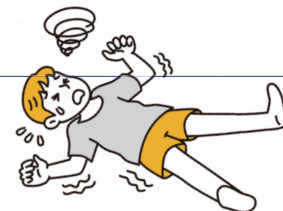


✓ けいれん

代表疾患 てんかん、脳炎、脳腫瘍、脳卒中(後遺症)、電解質異常など

症状

大脳の神経細胞の過剰な興奮により、身体の一部もしくは全身の筋肉に異常な収縮を生じます。てんかんの場合では数分以内で治まることが多いです。



✓ 手足の力が入らない

代表疾患 脳卒中(脳梗塞・脳出血)、ギラン・バレー症候群、多発筋炎、筋萎縮性側索硬化症など

症状

起立や歩行が困難になったり、日常生活動作が不自由になったりします。急性に悪化する場合と、徐々に悪化して筋肉のやせを伴う場合もあります。